

佳作

おばあちゃんとわたしの小さな感動

イギリス ロンドン日本人学校三年 平井 愛優美

去年おじいちゃんが死んじゃった。おばあちゃんいつもおじいちゃんといっしょにいていつも何でもいっしょにしていたから悲しくてさみしくなった。大きなお家で一人ぼっちでくらしていました。毎日、朝ごはんとお昼ごはんを夜ごはんをおじいちゃんの写真の前で一人で食べて、いつもポーツとしていました。

わたしのお母さんは、おばあちゃんの事が心ばいでした。だから日本からロンドンにおばあちゃんをつれて来ました。おばあちゃんは、うれしくて毎日朝ごはんとお昼ごはんを夜ごはんをわたしたちといっしょに食べました。いすもおばあちゃんのためにもう一つ入れました。みんなは、ごはんの時はふざけたりわいわいしゃべったりしていて、おばあちゃんももっとニコニコしていました。おばあちゃんは、

わたしとすごろくをしたりおさんぽに行ったりしました。みんなといっしょに楽しくあそびました。

おばあちゃんの部屋は、安心する部屋です。たとえばお姉ちゃんがテストで大へんな時はお姉ちゃんはおばあちゃんといっしょにねてみたらよくねむれました。お母さんは、いつもおばあちゃんの部屋に行っておばあちゃんにこまった事を聞いてもらっていました。お父さんも、自分の書いたものをおばあちゃんに見せにきました。

とうとうおばあちゃんが日本に帰らなくちゃいけなくなりました。おばあちゃんはいっぱい元気が出て色んな事をがんばると言った。教会に行ったりお習字を習ったりするって言った。お料理をするって言った。「また来るからね」でわらってさよならした。

わたしは、おばあちゃんがいなくなってさびしかったけど、おばあちゃんがわらってたからわたしもしあわせな気持ちになった。わたしたちは、おばあちゃんからゆっくりする事を習った。お母さんは、こわくおこるけど、

「わたしはおばあちゃんみたいになる。」

と言いました。でもお姉ちゃんたちとわたしは、むりだと思いました。そしてお母さんがまたおこったから本当にむりでした。でもお母さんは今日おばあちゃんから教えてもらったハンバーグを作りました。とってもおいしかったです。おばあちゃんもわたしたちから元気をもらったと言いました。すごく大きな感動じゃないけど、毎日楽しい小さな感動がありました。